

テレビの喫煙シーン出現率に対する健康増進法の影響  
—アニメ番組・ドラマ番組を調査して—

内 山 三 郎

岩手大学教育学部研究年報 第74巻 別刷  
平成27年3月

Reprinted from the Annual Report of  
the Faculty of Education, Iwate University, Vol.74  
March 2015

## テレビの喫煙シーン出現率に対する健康増進法の影響

### —アニメ番組・ドラマ番組を調査して—

内 山 三 郎\*

(2014年9月30日受付, 2014年12月22日受理)

#### 1. はじめに

タバコを吸うことによる健康への影響は、喫煙関連三大疾患としての癌・心疾患・肺疾患を始めとして、その他にも多くの健康への害が知られている<sup>1)</sup>。そのため喫煙の害を訴える多くの運動が行われ、2003年5月には健康増進法が施行されるに至った。日本の成人喫煙者の割合は、日本たばこ産業(JT)が1965年より継続的に調査しており、その割合は1966年のほぼ5割(49.4%)を頂点にして継続的に低下しており、本年(2014年)はついに2割を切る(19.7%)状況となった。しかし、男女別の喫煙率(2014年)で見ると男性が30.3%で、女性は9.8%であり、男性の喫煙率は女性のその3倍強となっている。もっともピーク時の男女別喫煙率(1966年)では、男性が83.7%で、女性が18.0%であるから、女性の喫煙率はほぼ半減であり、男性のそれは半分以下に減少した結果となっている<sup>2,3)</sup>。

1960年代には、まだ喫煙による健康被害の報告が一般的ではなく、喫煙は仕事をする男の脇役として考えられていたと思われる。また、「一服する」という言葉に現れているように、休憩時間にタバコを吸うことが一般的でありかつ日常的行為であった。キセルでタバコを吸っていた時代であれば、一服するには仕事の手を休めることになるので、休憩時間を取ることであった。しかし、紙巻きタバコ(シガレット)が出現してからは、多くの職場で仕事にもタバコを吸うことができるようになり、そのような行為も許されるようになった。更に、功成名を遂げた男は葉巻やパイプタバコをくゆらす、という喫煙の肯定的イメージも作られてきたように思われる。このような喫煙の肯定的イメージ作りには、タバコの製造・販売会社の宣伝<sup>4,5)</sup>が大いに貢献してきたようである。従って若い世代にとって喫煙を始めることは、仕事をする大人として日常的な行為の一つになっていたのではないと思われる。

近年、タバコ会社の宣伝は様々な規制により、子供達の眼には入らないよう考慮されてきている。それにもかかわらずタバコを吸うという行為が日常的行為として違和感なく受け入れられるということは、幼少時からの見聞が大きく作用すると思われる。その中では周りの大人の喫煙行為と共に、マスメディアからの見聞の影響が考えられる<sup>6)</sup>。特に幼少時では、テレビのアニメ番組の影響が大きいと考えられ、成長に伴ってはテレビドラマの影響も大きいと思われ

---

\* 岩手大学大学院教育学研究科

る。テレビのアニメ番組の中に喫煙シーンが日常的行為として登場していれば、大人はタバコを吸うものという肯定的イメージが次第に形成されることになる。それが就職・大学入学・成人の時期をキッカケに、あるいはそれ以前の時期に喫煙習慣が始まることは十分に考えられる。一旦喫煙が始まると、タバコに含まれるニコチンは大麻・コカイン並の依存性薬物であるため<sup>7)</sup>、容易に禁煙ができないことは周知の事実である。一般に、喫煙におけるマスメディアの影響については非常に大きいと考えられ、アメリカ疾病対策センターは、未成年者が映画の喫煙シーンの影響を受けて喫煙を始めるとの観点から、喫煙シーンのある映画への規制強化(成人指定)を求めた報告書を発表(2010年)しているほどである<sup>8)</sup>。また、映像ではないが、福音館書店発行の月刊誌「たくさんのふしぎ」2010年2月号(対象年齢:小学校3年生から)は、子ども向けの雑誌でありながらタバコ喫煙の場面が何度も描かれているとの理由で、販売が中止されている<sup>9)</sup>。

本研究は、テレビのアニメ番組やドラマ番組において、健康増進法の施行により喫煙シーンの出現率にはどのような影響があったのか検証したものである。健康増進法施行の前後でテレビ番組のアニメやドラマの中の喫煙シーン出現率がどのように変化したかを調査し、法施行の効果を検証した。これらの結果に基づき、近年の喫煙率低下の要因について考察した。

## 2. 資料と方法

健康増進法施行(2003年5月)以後に放送されたテレビ番組と健康増進法施行以前のテレビ番組を比較して調査した。健康増進法施行以前のテレビ番組については、レンタルビデオを調査対象とした。その喫煙シーンの出現を秒単位で計測した。基本となる番組の実放送時間は、番組の開始・終了の仕方にそれぞれの違いがあるので、コマーシャルの時間までを含めて、30分番組(一部25分番組)、60分番組、120分番組のそれぞれの番組時間を放送時間の基準とし、喫煙シーンの出現秒数を百分率で表した。喫煙シーン出現時間については、ストップ・ウォッチを用いて計測した。

調査対象の番組は、子供向けのアニメ番組、青年・成人向けの刑事ものとサスペンスもののドラマ、同じく青年・成人向けのホームドラマの3分野に分け、よく見られていると思われる番組を任意に選択した。動物が主たる配役である番組と時代劇については、調査の対象から除外した。

健康増進法施行後のアニメ番組とドラマ番組は、健康増進法が施行(2003年5月)されてから半年以上が経過した2004年1月から9月に放送されたものを、ビデオに録画して資料とした。アニメ番組は10番組(ドラえもん、アストロボーイ ASTRO BOY 鉄腕アトム、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん、名探偵コナン、こちら葛飾区亀有公園前派出所、あたしんち、サザエさん、金色のガッシュベル、ふたりはプリキュア)で、25分または30分番組を各6回分の計29.5時間分を資料とした。ホームドラマについては5番組(渡る世間は鬼ばかり、世界の中心で愛をさけぶ、君が思い出になる前に、WATER BOYS 2、南くんの恋人3)で、60分番組各3回分(1番組は最終回の10分延長分を含む)の計15.2時間分、刑事・サスペンスもののドラマについては5番組(はみだし刑事情熱系最終章、新科捜研の女、西村京太郎サスペンス探偵左文字進9、京都のテミス女裁判官2、京都祇園入り婿刑事事件簿11)で、60分番組を各3回分の2番組と120分単発番組を3番組の計12時間分を調査した。調査対象番組

テレビの喫煙シーン出現率に対する健康増進法の影響

等の放送期間および公開年、放送年月日、放送時間は、分野毎に一覧表（表1～4）とした。

健康増進法施行以前に放送された番組は、法施行以後も継続しているテレビ・アニメの7番組（ドラえもん [’79]、鉄腕アトム [’80]:’03以降はASTRO BOY 鉄腕アトム、ちびまる子ちゃん [’93]、クレヨンしんちゃん [’92]、名探偵コナン [’96]、こちら葛飾区亀有公園前派出所 [’96]、あたしんち [’02]）で計35.5時間分、他に劇場放映版であるアメリカのディズニー・アニメ映画の4タイトル（ピーターパン [’53]、ピーターパン2 ネバーランドの秘密 [’02]、ノートルダムの鐘 [’96]、ノートルダムの鐘2 [’01]）の計5.1時間分を資料として調査した。ホームドラマは5番組（北の国から [’92]、南くんの恋人 2 [’94]、家なき子 [’94]、ショムニ [’98]、明日があるさ [’01]）で60分番組を各3話の計15時間分、刑事・サスペンスもののドラマは4番組（噂の刑事トミーとマツ [’79]、はぐれ刑事純情派 [’89]、古畑任三郎 [’95]、踊る大捜査線 [’97]）で60分番組を各3話の計12時間分について資料とした。ドラマの1番組（はぐれ刑事純情派）については健康増進法施行後の2004年に再放送されたものを録画して資料としたが、他は全てレンタルビデオ店（株式会社ゲオ）の商品として入手できた過去の放送番組をレンタルし、資料とした。以上、延べ時間として、124.3時間分について調査した。調査対象番組等の放送期間および公開年・放送年月日・放送時間は、分野毎および健康増進法施行前と後に区別して一覧表（表1～4）とした。

番組名	放送期間	調査の対象期間 (法施行前)	調査時間 (分)	調査の対象期間 (法施行後)	調査時間 (分)
ドラえもん	1973.4.1~継続中	1979.6.3~1979.9.9	240	2004.1.16~2004.5.7	180
鉄腕アトム*)	1963.1.1~2004.3.28	1980.10.1~1981.1.21	480	2004.1.13~2004.2.17	180
ちびまる子ちゃん	1990.1.7~継続中	1990(自選傑作集1~3)	180	2004.1.11~2004.2.15	180
クレヨンしんちゃん	1992.4.13~継続中	1992(傑作選1~4)	300	2004.1.17~2004.5.8	180
名探偵コナン	1996.1.8~継続中	1996(第21話~第29話)	270	2004.1.12~2004.2.16	180
こちら葛飾区**)	1996.6.16~2004.12.19	1996.6.16~1996.9.22	360	2004.1.18~2004.4.25	180
あたしんち	2002.4.19~2009.9.19	2002(No.1~No.3)	300	2004.1.9~2004.5.7	150
サザエさん	1969.10.5~継続中	—	—	2004.1.11~2004.2.15	180
金色のガッシュベル	2003.4.6~2006.3.26	—	—	2004.1.18~2004.4.18	180
ふたりはプリキュア	2004.2.1~2005.1.30	—	—	2004.2.1~2004.5.9	180

表1 調査対象テレビ・アニメ番組の放送期間と調査期間および調査時間

\*) 2003年以降の名称は、「ASTRO BOY 鉄腕アトム」

\*\* ) 正式名称は、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」

タイトル	調査の対象期間 (公開年)	調査時間 (分)
ピーターパン	1953	77
ノートルダムの鐘	1996	91
ノートルダムの鐘2	2001	66
ピーターパン2*)	2002	72

表2 調査対象劇場版ディズニー・アニメの公開年および調査時間

\*) 正式名称は、「ピーターパン2 ネバーランドの秘密」

	番組名	放送期間	調査の対象期間	調査時間 (分)
法 施 行   前	北の国から	1981.10.9~2002.9.7	1992(第1話~第3話)	180
	南くんの恋人 2	1994.1.10~1995.4.10	1994(第1話~第3話)	180
	家なき子	1994.4.16~1995.7.8	1994(第1話~第3話)	180
	ショムニ	1998.4.15~2000.6.28	1998(第1話~第3話)	180
	明日があるさ	2001.4.21~6.30	2001(第1話~第3話)	180
法 施 行   後	渡る世間は鬼ばかり	1990.10.11~2011.9.29	2004.5.6, 13, 27	180
	世界の中心で、愛をさけぶ	2004.7.2~9.10	2004.8.27, 9.3, 9.10	189
	君が思い出になる前に	2004.7.6~9.14	2004.8.31, 9.7, 9.14	180
	WATER BOYS 2	2004.7.6~9.21	2004.8.24, 9.7, 9.14	180
	南くんの恋人 3	2004.7.8~9.16	2004.8.26, 9.2, 9.9	180

表 3 調査対象テレビ・ホームドラマ番組の放送期間と調査期間および調査時間

	番組名	放送期間	調査の対象期間	調査時間 (分)
法 施 行   前	噂の刑事トミーとマツ	1979.10.17~1982.12.22	1979(第1話~第3話)	180
	はぐれ刑事 純情派	1988.4.6~2009.12.16	1989(第10,12,13話)	180
	古畑任三郎	1994.4.13~2006.1.5	1995(第1話~第3話)	180
	踊る大捜査線	1997.1.7~3.18	1997(第4話~第6話)	180
法 施 行   後	はみだし刑事 情熱系	1996.10.16~2004.6.30	2004.4.14, 21, 28	180
	新 科捜研の女	2004.4.15~6.10	2004.5.6, 13, 27	180
	西村京太郎サスペンス探偵*)	1999.11.15~2013.4.15	2004.5.10	120
	京都のテミス 女裁判官 2	2003.5.17, 2004.5.8	2004.5.8	120
	京都祇園入り婿刑事事件簿 11	1997.5.9~2005.7.29	2004.4.16	120

表 4 調査対象テレビ・捜査系サスペンスドラマ番組の放送期間と調査期間および調査時間

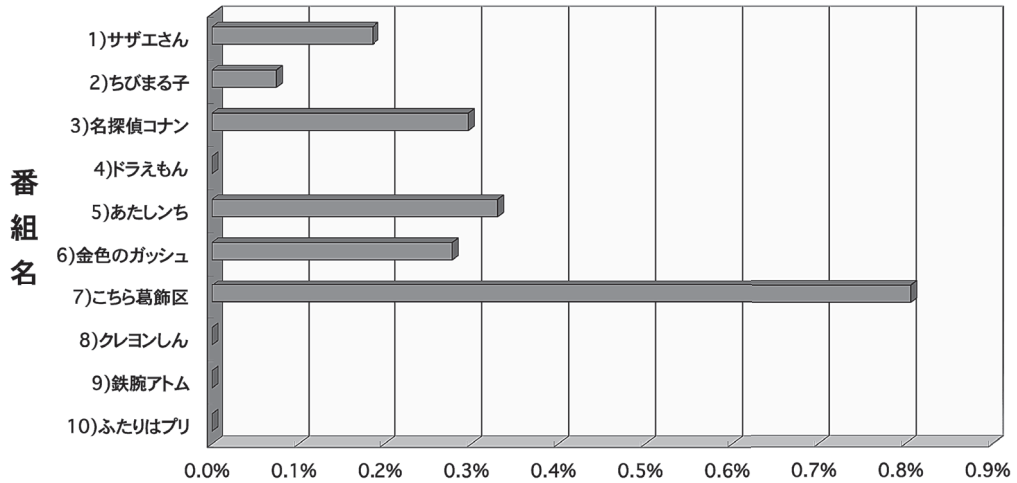
\*) 正式名称は、「西村京太郎サスペンス 探偵左文字進 9」

アニメ番組の視聴率は、朝日新聞の関東地区週間視聴率「TV ランキング」ベスト 10 (ビデオ・リサーチ社調べ)<sup>10)</sup> に取り上げられた値を用いた。調査対象 (全 6 回) 全てがベスト 10 に入っていたもの (5 番組) についてはその平均値と最大値を、毎回ではないもの (5 番組) については取り上げられた回数とその最大値を表示した。

### 3. 結 果

テレビのアニメ番組は、今や国内放送に限らずリメイク版を含めて世界に輸出されるアイテムの一つとなっている。児童・生徒にとって、テレビのアニメ番組は様々な影響を及ぼすメディアであると考えられる。よく見られていると思われる任意の 10 番組について、健康増進法施行後のタバコの喫煙シーン出現率を計測したところ、喫煙シーンの出現率は最小 0 % から最大 0.81 % の間に分布しており、単純平均では 0.20 % であった (図 1)。ここで調査対象となった

テレビの喫煙シーン出現率に対する健康増進法の影響



喫煙シーン出現率

図1 健康増進法施行後のテレビ・アニメ番組（2004年）における喫煙シーン出現率

番組名	視聴率／BEST10		
	回数*	平均値(%)	最大値(%)
1) サザエさん	6	21.5	24.1
2) ちびまる子ちゃん	6	14.4	15.6
3) 名探偵コナン	6	13.4	14.7
4) ドラえもん	6	12.1	13.2
5) あたしんち	6	12.0	13.6
6) 金色のガッシュベル	5	—	10.1
7) こちら葛飾区**)	4	—	14.7
8) クレヨンしんちゃん	4	—	9.6
9) 鉄腕アトム***)	2	—	9.1
10) ふたりはプリキュア	2	—	8.2

表5 テレビ・アニメ番組視聴率のランキング状況と平均視聴率

\*) 全6回の調査対象放送で、「視聴率／ベスト10」にランキングされた回数  
(毎回ランクされたものについてのみ、その平均値を表示)

\*\*\*) 正式名称は、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」

\*\*\*\*) 2003年以降の名称は、「ASTRO BOY 鉄腕アトム」

アニメ番組の視聴率は、朝日新聞の週間「TV ランキング」ベスト10<sup>10)</sup>の常連として名が出ている番組である。このランキングはアニメ番組だけでなく、ニュース、ドラマ、バラエティ等全ての分野を網羅したものであり、調査対象となった放送(全6回)の内の6回から2回までがランク・インしている(表5)。この視聴率の高さは、子供達からの人気の高さと共にその影響力の大きさもうかがいすることができる。

選択された10番組の内の7番組については、健康増進法施行以前の放送分がレンタルビデ



オとして貸し出しがおこなわれていた。この7番組についての喫煙シーンの法施行以前の出現率は最大値1.09%から最小値が0.04%であり、平均値は0.40%であった。法施行後のこれら7番組のタバコ喫煙シーン出現率は最大値0.81%、最小値0%で、平均値は0.22%であった。法の施行の前には喫煙シーンの出現率0%は無かったが、法施行後では7番組中の3番組で喫煙シーン出現率が0%になっており、また平均値的にもタバコ喫煙シーン出現率は減少していることから、健康増進法の影響があったと考えられる(表6)。

番組名	調査対象年 (法施行-前)	出現率 (%)	調査対象年 (法施行-後)	出現率 (%)
ドラえもん	1979	1.09	2004	0
鉄腕アトム*)	1980	0.48	2004	0
ちびまる子ちゃん	1990	0.75	2004	0.07
クレヨンしんちゃん	1992	0.27	2004	0
名探偵コナン	1996	0.27	2004	0.30
こちら葛飾区**)	1996	0.10	2004	0.81
あたしんち	2002	0.06	2004	0.33
サザエさん	—	—	2004	0.19
金色のガッシュベル	—	—	2004	0.28
ふたりはプリキュア	—	—	2004	0

表6 健康増進法施行前・後における喫煙シーン出現率の変化

\*) 2003年以降の名称は、「ASTRO BOY 鉄腕アトム」

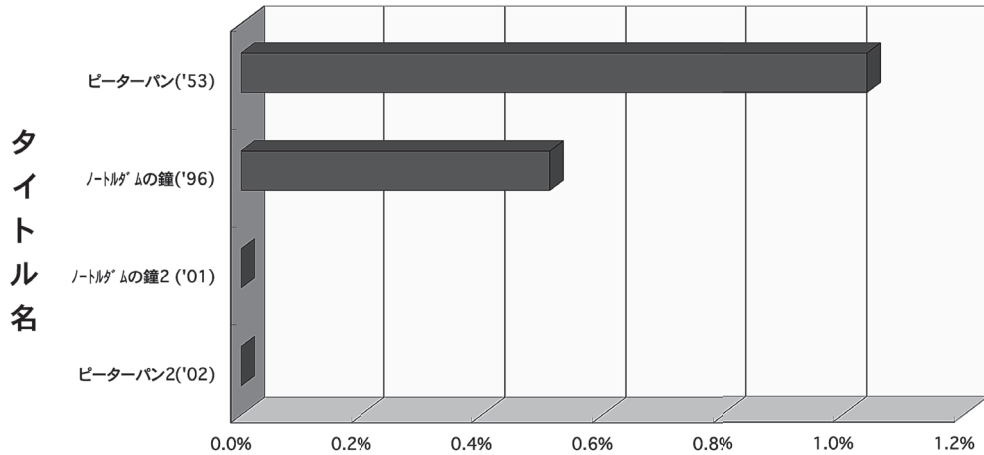
\*\*\*) 正式名称は、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」

海外との比較のため、タバコ喫煙規制は日本より早く、大人の喫煙率の低いアメリカのアニメ映画について喫煙シーンの出現率を計測した。アメリカのディズニー・アニメ映画でパート1とパート2の制作年代が異なる2タイトルの喫煙シーン出現率をみたところ、制作年代の古いパート1は喫煙シーンがそれぞれ1.04% (ピーターパン、1953年)と0.51% (ノートルダムの鐘、1996年)出現していたが、制作年代の新しいパート2 (ノートルダムの鐘2001年;ピーターパン、2002年)での喫煙シーンの出現率は共に0%であった(図2)。アメリカ映画におけるアニメの喫煙シーンについては、2000年前後になくなったように思われる。但しこの結果については、調査数が少ないため更に多くの検証が必要である。

視聴者層として中・高校生以上が対象と考えられるホームドラマについても、健康増進法施行以前と以後における喫煙シーンの出現率を比較した。法施行の前・後に継続して放送された番組は、「南くんの恋人」以外なかったため、ホームドラマの枠組みとして捉えた比較である。法律施行前の平均値では1.22%であったものが、法律施行後の平均値は0.12%とほぼ1/10に低下している(図3)。「南くんの恋人」の法施行前・後の喫煙シーン出現率は、1.41%から0%となっている。番組は任意に選択したものであるが、法律施行後で顕著に喫煙シーンは減少していることから、健康増進法施行の影響があったことが示唆される。

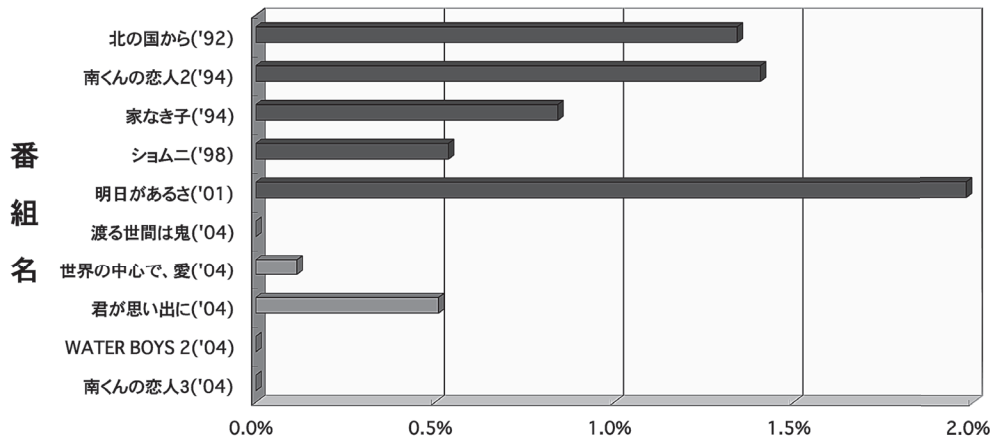
テレビドラマでも刑事が関与する事件捜査ものやサスペンスドラマについて調べてみると(図4)、ばらつきはあるものの喫煙シーンの出現率はホームドラマに比べて高率である。健康増進法施行以前のドラマでは、喫煙シーンの出現率が最大4.79%にも達する番組も見られる

テレビの喫煙シーン出現率に対する健康増進法の影響



喫煙シーン出現率

図2 ディズニー・アニメ映画における喫煙シーン出現率の変化

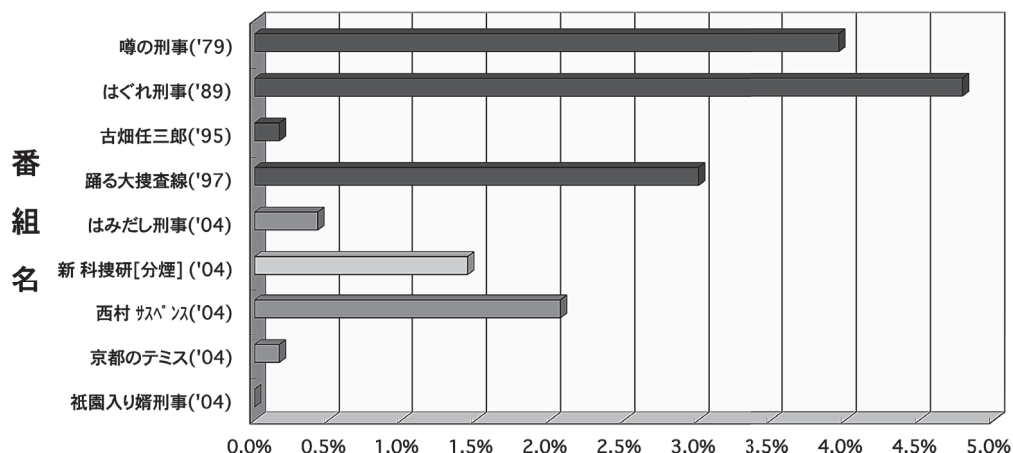


喫煙シーン出現率

図3 健康増進法施行前・後におけるホームドラマの喫煙シーン出現率

が、法律施行後の喫煙シーン出現率は最大2.07%と明らかに低下している。法施行前における喫煙シーン出現率の平均値では2.98%であり、法施行後のその平均値は0.84%に低下している。この分野のドラマでは、法施行後の1番組（新 科捜研の女）において、喫煙シーンの半分以上が喫煙室内（分煙）の設定であった。上述の法施行後の喫煙シーン出現率平均値はこの分煙の喫煙シーンを含めた値であるため、分煙されていない喫煙シーンの出現率平均値はさら





### 喫煙シーン出現率

図 4 健康増進法施行前・後における刑事捜査系ドラマの喫煙シーン出現率

に低いことになる。健康増進法施行の影響は、この分野のドラマにおいても大きかったことが示唆される。

## 4. 考 察

日本の成人喫煙率は年々減少しており、近年は20%未満になったことが複数の調査（厚生労働省の2010年国民健康・栄養調査<sup>11)</sup>、2014年日本たばこ産業（JT）調査<sup>2)</sup>）で報告されている。また、日本の喫煙率には男女差があって男性の喫煙率が高く、その男性の喫煙率が右肩下がりに減少し続けていることが、全体の喫煙率減少に大きく貢献している<sup>3)</sup>。このような喫煙率の減少には、公衆衛生学分野における地道な啓蒙運動の効果が大きく働いていると考えられる。喫煙を原因とする疾病は、国民の健康被害を増大させると共に、その結果として病気を治療するための費用支出を増大させる結果となる。そのため、商品であるタバコの包装紙には喫煙有害性を示す警告文が表示されるようになり、テレビ等によるタバコのコマーシャルが規制され、更には受動喫煙の害も報告されて、健康増進法が制定・施行されるに至った。その後は公共施設内の分煙から施設内の全面的禁煙へあるいは教育機関の敷地内禁煙へと進んでいる状況である。

日本たばこ産業は、時代の趨勢に従って自主規制（「広告・販売促進活動に関する自主基準」）を行っているが、広告による販売促進の効果については自ら認めるところでもある<sup>4)</sup>。しかし、タバコの宣伝をする意識はなくても、ドラマやアニメの作者達が社会現象の一部として映像に取り入れてしまえば、結果的にはタバコの宣伝をしたことになる。その社会的影響は、非常に大きなものであると考えられる。

## テレビの喫煙シーン出現率に対する健康増進法の影響

今回の健康増進法施行前後のテレビ番組（アニメ、ドラマ）を比較した結果により、一部のアニメ番組には例外的ケースも認められたが、平均的には健康増進法施行による喫煙シーンの減少効果が認められた。日本の成人喫煙率減少の推移を示したグラフによれば<sup>12)</sup>、相対的に喫煙率の低い女性では健康増進法施行後も大きな変化は認め難いが、喫煙率の高い男性では、その折れ線グラフの傾きより健康増進法の施行後に喫煙率減少が加速されている様子が認められる。日本の成人喫煙率は、近年やっとアメリカの水準にまで低下してきた<sup>13)</sup>ということである。健康増進法の施行は、テレビ番組の喫煙シーン減少という現象を通して、成人喫煙率の低下現象に影響を及ぼしていることが考えられる。

## 5. おわりに

本研究は、日本の成人における喫煙率低下における健康増進法の影響を調べたものである。健康増進法施行の前と後で、アニメ番組・ドラマ番組においては明らかに喫煙シーンの出現率は減少していた。成人喫煙率が持続して低下している背景には、公衆衛生的な啓蒙運動の他、社会的な禁煙運動・嫌煙運動・分煙運動の多大な貢献があると思われる。そのような背景に加えて、健康増進法施行後のテレビのアニメ番組・ドラマ番組における喫煙シーン映像の減少は、成人喫煙率のさらなる低下につながるのではないかと思われる。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、映像中の喫煙シーン出現時間計測は研究補佐員・小川鈴子氏の協力により行われた。なお本研究は、平成15年～平成16年財団法人ヘルス・サイエンス・センター研究助成（課題名「喫煙習慣形成に及ぼすテレビを媒体とするマスメディアの影響」）を受けて行われた。記して感謝の意を表します。

## 引用文献

- 1) 公益財団法人日本学校保健会「喫煙防止教育パンフレットの解説、3 たばこの害について」<http://www.hokenkai.or.jp/3/3-5/3-55-03.html> (2014.9.12 閲覧)
- 2) JT プレスリリース「2014年『全国たばこ喫煙者率調査』、男女計で19.7% (2014/07/30発表)」[http://www.jti.co.jp/investors/press\\_releases/2014/0730\\_01.html](http://www.jti.co.jp/investors/press_releases/2014/0730_01.html) (2014.9.11 閲覧)
- 3) 健康・体力づくり事業財団「厚生労働省の最新たばこ情報、成人喫煙率 (JT 全国喫煙者率調査)、性別・年代別喫煙率の推移」<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd090000.html> (2014.9.11 閲覧)
- 4) 三和良一、鈴木俊夫『日本たばこ産業 ー百年のあゆみー』(山愛書院, 2009年9月), 252-265。
- 5) 伊佐山芳郎『現代タバコ戦争』(岩波書店, 1999年5月), 123-134。
- 6) 上木信弘『21世紀型授業づくり 28 タバコに手を出さない子を育てる小学校の禁煙教育』, (明治図書出版, 2001年7月), 10-11。
- 7) ダイヤモンド・オンライン「依存症はコカインなみ!? 喫煙者の7割がニコチン依存症」(2010.12.13)

内 山 三 郎

- 付) [http://www.excite.co.jp/News/society\\_g/20101213/Diamond\\_20101213003.html](http://www.excite.co.jp/News/society_g/20101213/Diamond_20101213003.html) (2014.9.29 閲覧)
- 8) 読売新聞「喫煙シーン『成人指定に』米政府機関、映画への規制主張」(2010.8.23 付)
- 9) 読売新聞「愛煙家おじいさん登場、児童誌が販売中止に」(2009.12.29 付)
- 10) 朝日新聞編集部『朝日新聞縮刷版』(朝日新聞出版, 2004年1月号～5月号)
- 11) 医療介護CB ニュース「喫煙率初の20%割れ、男女とも最低－『健康日本21』の目標は12.2%目安に」(2012.1.31付) <http://news.yahoo.co.jp/pickup/6032216> (2014.9.29 閲覧)
- 12) 朝日新聞デジタル「喫煙率、ついに20%割れ JT 調査、推計2059万人」(2014.7.31付) <http://www.asahi.com/articles/ASG7Z5J9GG7ZULFA01T.html> (2014.9.12 閲覧)
- 13) ニュースフィア「日本の喫煙率20%以下に 半世紀前は約50% 変化の背景に海外メディア注目」(2014.8.5 付) <http://newsphere.jp/national/20140805-6/> (2014.9.12 閲覧)